磐城青年新報

新聞定價　一行　金五錢
廣告料　四十錢增

發行所　福島縣石城郡大浦村大字狐塚字酒井與八五番地
編輯兼印刷發行人　磐城青年新報社
四倉町新町五十番地
場所指定　福島縣石城郡

年頭の冠詞

吾々の張り切つた生命の流れが、力強く一九三〇年を迎へた。

意義ある運動を續けてゐる吾々は勇敢に、眞劍に戰はねばならぬ、生々と、眠る事なく、意識にあふれて歷史を渡らねはならぬ。

新生の春を迎へ、重大なる使命を思ふ時、自ら戒めて、一致協力、大同團結の力を以つて、猛進せねばならぬ事を痛感する。

根帶を大地に深く張り、樹枝を思いの儘に擴げた、亭々たる喬木の如く惡魔的暴風をも恐れぬ、根强さと力强さを、養成して、以つて事に當るの覺悟が必要である。

混沌たる社會事象を改革すべく敢然と起つた吾々は歷史的運動の主体とならねばならぬ。

新春の初頭に當つて、勇敢なる闘士として、あく迄も戰ひ進むことを誓ふ。

磐城青年新報社

宣言

吾々に與へられたる使命を遂行すべく、熱烈純眞なる愛鄕心から、磐陽の天地に青年政治運動を起してより滿三年。未だ其の目的は達成されずと雖も、光りに向つて進む者の喜悅を知る吾々は、勇敢に而も何ものをも恐れず、大抱負の實現、大使命の遂行に躍進を續くる勇氣を失はず。

昭和維新の宏謨を成就し帝國の光榮を中外に宣揚し、愛國殉公の至誠より同胞和衷共同の生活を實現、依つて以て更始一新の實を擧げんとする、此の大使命は、吾々に與へられたるさん然として輝く一つの光明である。

前途に横はる大難關は、一にして留まらざるを知る、されど、吾々青年の此の熱と力を以つて打開せんか、難關の突破又極めて容易。　大勇猛心を振ひ起して突進するの決心を持つ。

昭和五春の年頭に當り、吾々は更らに一大躍進を廣く天下に宣言す。

一月元旦

磐城青年同盟會

新春感

…力…

みんなでうんと働いて
お互が許しあつて
愛しあつて喜びあつて
伸び〳〵と生きてゆく
それで良いのだ
それで充分だ
人生は理論ではない。

…光…

草木の若芽は光
りを浴びて
伸びて行く
そしき生きて行く
吾々は光りを求めて
勇敢に大膽に
其の歩みを續けよう。

…悅…

消いた火に手をかざすの
愚さ
渴れた井水を汲むの愚
自ら悅びを知らぬ者は
誰も悅ばす事は出來ない
燃ひさかる火の樣に
湧き出づる泉の樣に
豐富に悅びを流せ。

年頭に際し會員諸君に告ぐ

磐城青年同盟會　會長　木村守江

烏兎匆々、更に一年を送り、玆に昭和五年新春を迎ふ、顧れば昭和四年は吾が日本帝國にとりて頗る多難なる年であつた。人事行政の失敗に次ぐに所謂人民の名に於ての不戰條約、滿洲某重大事件等に連坐して瓦解したる田中政友會內閣に次ぐに國民一般に少くとも我等青年に好感を與へつつ生れ出でたる濱口內閣が代つた、我等はこの內閣こそ現下の受難的國狀に處し我國七千萬同胞をしてその職業に安んドせしむるならむと多大の期待を待ち迎ひたのである、然るに組閣以來宣傳をのみ事とし、國民生活の實質を考慮せず爲めにその高潮せし緊縮政策は、國民生活を益々萎縮せしめ、金融界の逼迫と國家產業の衰微とは失業者の續出と經濟恐慌來を絶叫せしむるに至つた、剩へ官吏減俸問題の如きは閣議の威信失墜と爲政家の杜撰を暴露したるものにして一般俸給者を恐喝して一大墮性を與へたに過ぎぬ政界に於て斯の如くであるが最も吾人の憂慮すべきは國體の變革を企つる共產黨事件であつた、彼等不ていの徒が、群をなして各地より檢擧せられ而も其中には最高學府の敎職を奉じたものさい加はつてゐる。

實に驚き、痛嘆禁じ能はざるところである。

然し、これと同時に私共國民として怨サの念を高からしめたものは頻發せる疑獄事件である、私共は斯く考へる時に呆れざるを得ない、實に現時の政黨は其の政黨の分類によつて多少の相異はあるが概觀すれば何れも政權獲得組合に外ならない、而も政權獲得は利權獲得の手段であつてこれを得んか爲には國家國民の利害得失を顧みず而も政權に由て國民を喰物とし、自黨の黨勢擴張と自己の利權にのみ汲々たるものであることを赤裸々に暴露されたのである、私共は此等の事實に直面して驚き悲しまざるを得ない、然し私達青年はこの醜狀を呆然として拱手傍觀すべきではない。更に靜思默考してその事件の釀し來たる今日の世相に就て批判し、研究する時我等青年の責務の如何に重大なるかを痛感するのである、

看よ、世はたう〳〵として浮華輕調に流れ、徒らに物質文明をのみ謳歌して正邪善惡を問はず私利私慾にのみ汲々とし、爲めに國家は一大危機に逢着せる今日、克く質實剛健の氣風を維持し正義の支持者として起つて祖國の救濟の爲めに心血を注ぐものは我等青年あるのみである

青年の熱と力に滿ちた腕こそ腐敗墮落せる現下の政狀を矯正し、弊困ばつせる經濟界を救濟し我等青年の純眞なる意氣こそ國民思想を善導し國際場裡に於ける國民平和を保持し得るものである

我等青年は未熟であるかも知れぬ輕卒なるが如くであるかも知れぬ、然し我等には老カイと頑迷とに勝る熱と力とがある、我等が堅き信念と强き決意とを以て立つならば、何か恐るるに足るものがあらう

國家永遠の平和を維持し正義の支持者として起つものは我等青年でなければならぬ、共に自重し自愛し以て國家の重きに任ずるの覺悟がなければならぬ

使命を思い。責任を思い猛烈と進め。そして光を持つ者の幸福を知れ。

○

同志よ！眞劍に勇敢に戰ひ續けよう、一九三〇年を有意義なものとする爲めに。

時事寸評

◇

元日や枯菊のこる庭のさき。　(子規)

○

行くに連れて松にしづみぬ春の山。　(青嵐)

○

早春の庭をめぐりて門を出でず。　(虛子)

○

新春を迎ひて俳聖の心境已ら異なるものありされど、新春の氣は漲る。

○

一九三〇年の新春、こう手傍觀する事をやめよ、自ら街頭に起て。

○

謹賀新年

磐城青年同盟會

木村守江
鈴木勇
門馬倉次郎
渡邊貞三
西山正清
新妻恭孝
木村幸雄
菅波康太郎
高崎義雄
草野又藏
坂本惣次郎
鈴木秀夫
薄葉金重
武藤豐
神谷一郎
小林豐廣
西山德一
酒井與市郎
外
會員一同

改造を發表した 政友部會總會

青年の登用と細胞組織

今後の活躍が注目される

石城政友部會總會は舊臘中平町有聲座で開催、來會者參百數拾名、定刻會長安島重三郎氏開會を告げ型の如く宣言並に決議を了し役員選擧に移りたるも滿場一致安島會長の指命で左記の如き新役員の決定を見たが今回の役員は青年をより多く登用したことゝ細胞組織によつて進むことになつたことが重なるもので大改造の後が歴然としてゐることは從來絕對安全地盤だと長夢を見てゐながら不結果であつた同部會の幹部連が時の流れを察知し衰頽しつゝある政友部會の隆昌を見るべく此の大改造をなしたもので、改造後に於ける政友部會が、將來如何なる活躍をなすか頗る注目されてゐる

會長　代議士　木村清治
副會長　縣會議員　山崎吉平
同　同　古川傳一
幹事長　同　鈴木辰三郎
相談役　高岡唯一郎　安島重三郎　井上茂作　金成通　小野晋平　伊藤淺之助
會計監督　阿部政右衛門　關内正一
▲常任幹事　千葉彦治、山田忠太郎、三森虎雄、川崎文治、蓮沼龍輔、赤津庄兵衛、武藤豊、遠藤俊一郎、山田磐麿
▲支部代議員　伊藤淺之助、門馬倉次郎、兒玉萬平、遠藤俊一郎、下山田嘉市郎、平山藤吉

新部會長に推された歸朝直後の木村代議士、幹事長鈴木辰縣會議員兩氏が就任の挨拶を兼ねて政界の現狀を說き黨員を鼓舞した、當日本部特派員として出席した代議士山下谷次氏は二時間餘に亘り現內閣の施政方針の誤れる處を痛擊し來會者に多大の感動を與へたが政友部會の總會としては近來にない緊張振りを示して盛會裡に閉會した

同志間に叫ばる 遊說宣傳部新設

主義を徹底させる爲めに 速急に實施すべきである

石城政友會が去月八日の部會總會で青年登用と細胞組織を決行する事を發表した事は沈滯し切つて同黨の勢力ばん回の當然なる對策として各方面から注目されるに至つた、而るに其の後新幹部協議會を平町常任幹事宅に於て開催され、木村、安島の新舊會長外拾數名の幹事が出席し遊說部並びに宣傳部設置を具體化さんと協議を重ねた此の遊說部、宣傳部の設置は大改造をなした部會として當然とすべき道であり近く再び幹部會を開いて審重審議を重ねたと決定するものと見られてゐるが、一般大衆に黨の主義綱領を徹底せしむるには是非遊說部、宣傳部を新設する必要があり、昨今の如き險惡なる中央政界の雲行きから見ても一日も早く此の陣容を整ひるべきである永い夢から醒めた政友部會の幹部の中に時の流れを知るの明なく唯徒らに舊体を固守せんとする者があるとすれば大改造は何等其の効果を見る事が出來ず、大改造斷行の趣旨から言つても遊說部、宣傳部の新設をなすべきであると同志間に叫ばれてゐる。

青年同盟 幹事會

各種事項協議

磐城青年同盟會新役員の顏合せを兼ねた幹事の協議會は十二月六日午後七時から四倉町海氣館に於て開會されたが出席幹事六十五名にて武藤幹事長開會の辭を述べ木村會長の挨拶あり武藤幹事長議長となり議事に入り左記議事に就て熱心なる討議を爲し滿場一致にて之を決定した

一、本會の發展策
役員並に會長は本會の趣旨を徹底せしめ會員を募集すること

一、機關新聞配布に關する件
役員並に會員は機關新聞購讀者を募ると共に會員は各支部の活動狀況を報告し合せて地方時事問題に就ての意見評論的の原稿をつとめて送ること

一、副支部長選任の件
副支部長は支部長及び支部幹事に於て協議の上之を決定し本部に報告すること

一、遊說副部長選任の件
木村會長指名にて各支部より左記十二名の詮衡委員（四倉）武藤豊、熊田萬藏（大浦）磯井伴助、鈴木久助（大野）馬上豊、荻政治（草野）坂本惣次郎、新妻幸太郎（神谷）神谷市郎、鈴木秀夫（平窪）高萩盛雄、松本嘉久の諸氏を擧げ神谷市郎委員長となりせん衡委員會を開き協議の結果西山德一氏（大野）が推擧された

以上の議事を終つて演說に移り草野支部長坂本惣次郎、草野支部幹事富岡信夫、磐城青年新報編輯長酒井與市郎、幹事長武藤豊、相談役門馬倉次郎、副會長鈴木勇、本部幹事新妻幸太郎、同鈴木幸次郎、同馬上豊、諸氏の熱烈なる演說ありそれより宴會を催し各種の餘興等ありて十時過ぎ盛會裡に散會したが出席者氏名左記の通りである

（四倉）戸田昇、新谷慶三郎、宮本康一、田邊巳一、庄司新太郎、新妻正司、根本金七、門馬公平、鈴木幸次郎、上澤幸吉、鈴木久太郎、豊田美孝、武藤豊、菅波幸太郎
（大浦）片寄市重、岡本國丸、大樂政勝、古市權七、赤塚隆平、加澤喜市、岡田泰助、小野保壽、鈴木春之助、神谷祐、箱崎忠衛、鈴木久助、根本榮吉、高島直衛、酒井與市郎、磯井伊助
（大野）小野秀夫、馬上豊、荻彦二、會田伊一、西山德一、大間傳、荻政治
（草野）新妻孝太郎、樫村濟作、芳賀憲雄、新妻保、富田信夫、鈴木喜三平、坂本惣次郎
（神谷）神谷市郎、鈴木秀男、中野二郎、中野一衛、佐藤正一、鷹崎才一郎、志賀武、佐藤市雄
（平窪）松本嘉久、高萩盛男、鈴木勇

青年同盟會の 遊說部協議會

三十の部員熱辯を振ふ

五日四倉菅波氏別宅に於て

磐城青年同盟會遊說部では一月五日午後六時から四倉町菅波角之助氏別邸に於て總集會を開會し席上部員が各自左の演題の中一つを選んで雄辯を振ひ部員並に會の幹部がこれを批評し合自辯論の研究をなす事になつた

演題

（一）農村救濟策
（二）緊縮政策の批判
（三）政界淨化運動
（四）思想善導と中堅青年の態度
（五）水產立國について
（六）本會の使命

親愛なる同志に檄す

磐城青年同盟會　幹事長　武藤豊

親愛なる同志諸君！

新たなる年を迎ひて私は我が磐城青年同盟會の同志諸君と共に吾々青年に與へられたる使命と之を實現しなければならぬ責任とを痛切に感せざるを得ないのである。

斯くの如くして吾々は此の年になにを爲さねばならないか、吾々に爲すべき事はなんであるかと云ふことに就て、冷靜なる考察をなさねばならない

而して此事に考へを及ぼすとも、吾々は過ぎ去つた年に如何なる道を步んで來たかと云ふことも併せて考へるのである、吾々は三ヶ年餘親しい同志と堅く手を握り合つて青年大衆運動の爲めに勇敢に步んで來た、このことは吾々が正義と理想とを愛慕してやまない情熱の發露がさうさせたのであると云ふも過言ではないと思ふのである。

そこで吾々は新たなる年の始めに於て斯く決意しなければならない、と云ふのは吾々が今日まで步んで來た青年大衆運動の目標ある、新日本建設と青年政治の實現の爲めにいまゝでより一層それに猛進しなければならないが、我々の進む道は多難であり險岨ですらあることは勿論であり此の困難なる道を踏破して行くことは若き情熱と勇氣とによらねばならないのである。

我々はこの使命をいつかは果し得るであらうといふ光明を抱いて奮闘しなければならない、親愛なる同志諸君！我々はあくまでも正義と理想に燃え新日本建設と青年政治實現の爲めに青年大衆運動の大旗を高く掲げて社會に進出する決意を益々固め、我々青年の重大なる使命が奈邊にあるかと言ふ事を自覺し以つて勇敢なる戰を續けなければならないと信じるのである

希望

會員諸君に

私は前號にも編輯者としての希望を申し上げましたが更らに云はねばなりません。讀者並に會員諸君の好んで讀む『より良き新聞』を作る爲めには各位から寄稿あつてほしいことです五行でも十行でも或ひは三枚でも五枚でも結構なのです、何んでも思つたことを書いてほしいのです、四日の幹部打合せ會で十八日締切りのお願して置きましたのに一人の寄稿者もありません殘念です是非來月号からは思ふ儘を書きつらね御送稿下さらんことを切望致します

（編輯室から）

社告

從來の寄稿者は長文なので編輯者の苦しみは並大抵ではありません。甚だ勝手ですが十枚以上は今後御遠慮下さる樣願ひます

寄稿者各位

經濟界の不況打開と
地方銀行合同論の臺頭
苦窮のドン底にある磐城地方
此の不況は何によつて救はる？

磐城地方經濟界は苦窮のドン底に彷徨して居る、一九三〇年の新春を迎いて、不振の尖端に置かれた經濟界が如何に復活するかは、尠くとも經濟觀念の所有者は等しく氣づかい、同時に現在の狀態を打開するには如何にすべきかについは考慮して居る處で、漸進的に來た經濟界の不況は財界の動搖に際して平町磐城銀行の破綻によつて極度に萎縮し金融の逼迫、事業の不振を誘發した、殊に濱口內閣の緊縮政策に依つて益々不景氣が深刻と化した結果昨年の歲末には此の不景氣による悲慘事が各所に起きた仕末である、此の萎縮し切つた經濟界を甦生せしむるためには金融の圓滑を圖らねばならず、として叫ばれて來たのは强固な基礎を持ち地方を主体として起つ大銀行の出現即ち銀行合同論である、銀行法の改正によつて大資本の銀行のみが設立を認められる事になるので磐城地方に於ける各銀行は增資して大資本となすか、銀行を解体するか、各銀行が合同して大資本を結成するか、此の三つの中の一つを撰ばねばならない運命にあるのであるが、第一の增資は不振の極端にある現在の磐城地方には望み得ない事であり、第二の銀行解体は却つて此の不況を增進せしむる事になるべく、第三の各本店銀行が、無條件合同をなし資本を增大にする事が一番安全であり而も可能性が充分ある事なので、銀行合同論が有意義なものとして世上の注目を惹いてゐるのである

可能性のある
資本の統一
感情を捨てゝ進まば
最難關の突破も極て容易

石城郡に於ける本店銀行は四倉町四倉銀行、平町磐越銀行、磐越實業銀行、植田町磐東銀行と目下休業中の磐城銀行の五行であつて、此の五行の資本金を合同に際して減資を條件とするものが出來ても二百五十萬圓は下らない事になる、此の五銀行とも資本の系統を見れば、其の間幾分の相違はあるにしても大体に於て同一と見る事が出來、合同が實現可能と見られる所以も亦玆にある、唯何れを主体として合同すべきか、無條件の合同が果して成し得るか否かと云ふ事が、合同論の最難關と見られる点で、休業磐銀が過般の株主總會に於て決議した資本を一時減じ預金を株式に變更して增資に當てると云ふ整理案によつて開業する運びに至れば、此の最難關の問題も各行の讓歩的程度によつて石城郡地方に於ける景氣を及[illegible]切つてゐる地方を救濟する爲めに個々の感情を捨てゝ一路合同に向つて進めば、解決は至難事ではなく案外簡單に合同が實現するものと見られてゐる

銀行業者の
受難時代
郵便貯金增加
之れは何を物語る

昨昭和四年は金融業者にとつて正に受難時代であつたヒタ押しに迫つて來た不景氣は漸次深刻化して來た矢先財界のパニックとなり財界は極度に動ようを來たし銀行の破たんするもの續出金融は逼迫をつげ、中止、休止する事業が多く、さなきだに不景氣なのが不益々景氣となり、更らに金解禁の豫告から銀行業者は警戒的取引を續けなければならなくなつた斯の如き[illegible]代にあつて銀行家も此の不景氣の挽回と信用の恢復に全力をあげて戰つて來たが破たん銀行の續出は一般の銀行に對する信用が極度に削減されて來た即ち郵便貯金が未曾有の增加を示したのを見ても明らかにそれが解る、而も經濟界の[illegible]縮は漸[illegible]企劃を妨げ失業者は續出する有樣となり銀行に對して怨サの精を放つものも尠くない、此の受難時代を切りぬけ新らしい時代を造るにはどうしても大同團結をなして進まねばならないとは識者の常に說く處である。

疲弊救濟の道は
金融の圓滑
不景氣の尖端におかれ
ゐ縮し切つた地方產業界

石城郡地方に於ける景氣を直接支配すると迄言はれてゐる常磐炭礦界は一昨年[illegible]働爭議があつてから引續き營業が困難に陷り、市場に於ける九州炭、北海道炭等の壓迫により炭價は暴落し其の當然の結果が生產過剩となり貯炭は增加し之れが甦生策として送炭、出炭の制限を實行し續けてゐる程で其の不況振りは未曾有の狀態であると言はれ、一方農村は生糸相場の下落によつて繭が低廉となり、加へて稻作は大凶作、減收した、相場は低落するばかり、又各濱も夏漁は幾分豐漁であつたが秋漁は不漁で低利資金の運用によつて營業を續けてゐる有樣、尙石城郡の重要物產である木炭は相場の下落で生產が一ヶ月三万俵からの減を示してゐる、斯くの如く何れ一つとして不景氣を深刻ならしめる材料とならないものはない、石城郡の現狀は、凡ての事業の根元をなす金融の圓滑を圖らねば救濟する事が出來ないのである。

地方的の
新銀行
それが即ち地方の爲である

石城郡地方に於ける銀行合問題について某消息通は語る

金融界が逼迫してゐる一つの原因として地方的に關係の深い本店銀行が何れも財界動ようで打擊をうけて不振な營業狀態を續けてゐるためであつて現に仙臺に本店を持つ七十七銀行、水戶の常城銀行、此の兩銀行の支店が石城郡地方金融を牛耳取つてゐる形である、吾々は地方の爲めに地方を土臺とし地方に基礎を置く大資本の銀行を造らねばならない、それには新大銀行の設立は何うしても現在の各本社銀行を合同するより外に道がないと思ふ、地方の產業を開發する爲めに一日も早く實現する事を希望してやまない。

滿天下の青年に望む

草野支部長　坂本惣次郎

昭和も既に五年の春を迎へ當青年同盟會も年と共に盛大に成り行く事は諸君と共に喜びに堪えない所である然るに新日本の建設の大業未だ成らず、社會はあらゆる方面に於て諸君の超人的努力を要求して止まぬ此の時に當り我等は何を成すべきか、我國の現狀を見るに財界は不況となり思想の惡化は、いやしくも國家を思ふものゝ最も憂ひとする所である、之れは從來の政治家がみだりに手段を弄して政權をろう斷し、動もすれば公明を欠いて陰鬱なる政治をなした爲めにして、これ今日風敎の頹廢を招ぎ國民を驅つてとう／＼たる濁流に投じつゝあるのである夫れ政治は道德の力であり政治は敎育である、故に其の消長興廢は直ちに國民の特性、影響あるを免れない世の政治家が公明なる政治を布かんとすれば、國民の風致、亦必ず振作すべし、明治の維新は國步艱難の時期に行はれた、昭和の維新は如何に、成程明治の維新は一國の興廢を測らない危機であつた、併し當時の國民は外國の壓迫と云ふ正面の目標があり、尊王論も開國論もすべて之れが刺戟をうけて沸騰したのである、然るに昭和の維新は政黨の改善といひ、議會政治の徹底といひ、その基く所は人身の萎微、世道の頹廢、道德風敎の缺陷にはい胎するものである吾々は大いに質實剛健の氣風を養ひ、正を正とし、邪を邪とする國民的良心の振作を圖る事が第一である、舊來の政治家は黨利黨略を旨とし、政權爭奪の私鬪に耽つて憲政の健全なる發達を害し、議會政治本能を阻害したのである明治の維新は外界の壓迫に對する發撥運動であつたが昭和の維新は內界の頹廢に對する改造運動であり、我國民は外界の敵よりも內界の敵に惱まされてゐる、然らば何によりて此の國難を征服すべきであるか、それは青年の力である、邪惡に對する公憤と正義を要する熱情その所有者たる青年の發憤を賴りとする外ないのである、由來政治の改革は時の古今を問はず青年の士に依つて決行された明治の義擧も實は四十歲以下の青年が、同志が結束し、彼の回天の大業を達成したのである、然し私は斯く申せばて世時に經驗ある老成の長者を無用とするものではなく、老成者には老成者としての幾多の使命がある、之れに敬意を申すべきは勿論であるが、然し既往の政治家は餘りにも青年を除害した爲め潑溂の正氣に乏し、特權階級が勢力を扶植して固定的に化石し去らんとした、故に昭和新政の時運に臨み國民の進取的大飛躍を要する此の秋、青年を中堅として政治を動かし、此の陰欝なる政界に清新の空氣注入する事は議會政治の徹底を期する所以と考ふるのである、普選第一回の選擧により青年の力は試驗された、青年には金力もなければ權力もない、而して何等の地盤もない、けれども之れに代ふるに熱血がある純情がある、精神的地盤こそは廣汎にして力强いものである、青年はひとり政治のみならず、あらゆる方面の第一線に立つて革新の烽火をかざしたならば、その力は恰も燎原の火の如く、一世の病根も燒き盡す概を示し到る處その共鳴者を發見するのであらうと私は斷言して憚らない所である新春の初頭に當り一言所懷を述べ最も勇敢に社會改造の第一線に立つて奮鬪せん事を誓ふものである。

謹賀新年

代議士 木村清治

石城郡農會々長 安島重三郎

植田電力株式會社長 金成通

縣參事會員 鈴木辰三郎

縣會議員 古川傳一

縣會議員 山崎吉平

山崎與三郎

仝 清三

平消防組頭 井上茂作

諸橋守次

仝 元三郎

四倉町長 新妻盛

石城郡飯野村々長 伊藤淺之助

辯護士 千葉彦治

辯護士 眞木恒

植田物産株式會社 山崎登

石城郡植田町

赤津庄兵衛

石城郡勿來町

四倉町小學校長 馬場末松

湯本町小學校長 前川三省

石城郡第一區 小學校長會

石城郡第二區 小學校長會

石城郡第三區 小學校長會

石城郡第四區 小學校長協議會

平町々會議員 高橋亀松

小名濱町長 鈴木榮

江名町長 河野嘉藏

石城郡大野村々長 吉田盛治

仝大浦村々長 渡邊金治

仝草野村助役 鈴木長治

石城郡大浦村 木村醫院 電話（四倉）三三番

石城郡四倉町 門馬醫院 院長 門馬倉次郎 電話四三番

御料理旅館 海氣館 常磐線四倉町 電話五番

平町五丁目 磐城建物株式會社 井上貞治郎

万年筆各種 蓄音器各種（卸） 新譜豐富 蓄針各種（賣販） 部分品一式 平三丁目 天地堂 高倉精一 電八六七・振替東京七二四〇四

平産婆學校長 平看護婦會長 清野キヨ 平南町・電話三〇七

齒科醫師校醫 坂本齒科口腔外科醫院 坂本惣治郎 本院 福島縣石城郡草野驛前 分院 双葉郡久ノ濱町北荒蒔七

東部電力株式會社 四倉營業所

磐城セメント株式會社 四倉工業所

ヤマト醬油株式會社 遠藤俊一郎 福島縣江名町

福島縣石城郡小名濱町 合資會社 小名濱大網漁場 電話五二番

釜屋商店 平町五丁目 電話九・三九番

味噌と……醬油……たひら正宗……

山崎合名會社 福島縣平町 電話一〇番

銘酒 清世界醸造元（各炭礦御用達） 清水屋 石城郡小名濱町 電話六番

關内油店 店主 關内正一 平貳丁目 電一六話